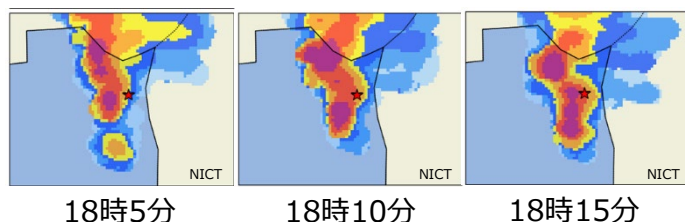


- 次世代の気象レーダ「MP-PAWR」等を活用し、会期を通して、万博会場を含むエリアの降雨について、ゲリラ豪雨検知アプリ「3D雨雲ウォッチ」でのプッシュ通知等を博覧会協会や来場者等に配信することに成功。
- 特に、8/5～8/31においては、スパコン「富岳」を使用し、夏季のゲリラ豪雨予測として、最大約25分先の予測を配信した。
- これらの情報は、博覧会協会にて気象状況の把握のために活用された。

<観測・予測事例>

- ・8/14(木) 18時頃、万博会場・周辺において、局地的な大雨が発生。
- ・2台の次世代気象レーダ「MP-PAWR」による30秒ごとの3次元観測、スーパーコンピュータ「富岳」等を活用した予測に成功。
- ・「3D雨雲ウォッチ」において、約25分先の降雨のプッシュ通知、雨雲を3D描画した予測情報を配信。
- ・理化学研究所のHPにおいても、約25分先までの雨雲の予測情報を2Dで配信。

MP-PAWRによる観測例



博覧会協会での活用イメージ

(博覧会協会提供)



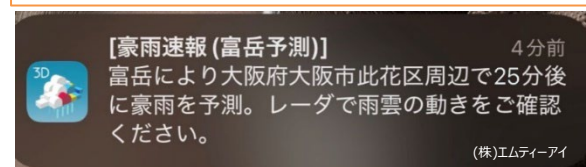
アプリでの3D描画例



理研のHPでの予測配信例



アプリでのプッシュ通知例

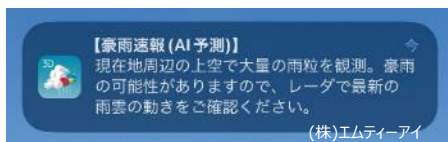


- 次世代の気象レーダであるマルチパラメータフェーズドアレイ気象レーダ（MP-PAWR）及び雨雲の観測データの効率的な伝送が可能なデータ圧縮復元技術等を活用し、大阪周辺地域の積乱雲等の立体的な雨雲の観測を行う。
- NICT等の実施主体が産官学の連携により、高精度な気象予測情報を博覧会協会や来場者等へ提供する。

<提供方法・内容>

- ① ゲリラ豪雨検知アプリ「3D雨雲ウォッチ」にて、雨雲の3D描画と、豪雨予測のプッシュ通知を提供。
- ② 理化学研究所のHPにて、豪雨予測情報を提供（スーパーコンピュータ「富岳」を利用して実施。）

①アプリでのプッシュ通知イメージ



①アプリでの3D描画イメージ



②理研HPでの予測イメージ



※「富岳」の予測について、アプリでは、約25分先の3D描画・プッシュ通知、HPでは2D予測を提供

<実施主体>

- ・ (国研)情報通信研究機構(NICT)、(国研)理化学研究所、(国研)防災科学技術研究所、(大)大阪大学、(株)Preferred Networks、(株)エムティーアイ

<期間>

- ・ 万博開催期間（2025年4月13日～10月13日）
（「富岳」を使用した豪雨予測は、8月5日～8月31日の27日間。）

●MP-PAWR

高精度に三次元観測ができる次世代の気象レーダ。総務省、NICT等で開発。急速に発達する積乱雲を早期に検知可能。
（観測時間：MP-PAWR 30秒、従来式 5分～）

●MP-PAWRと会場の位置関係

NICT未来ICT研究所（神戸市）及び大阪大学（吹田市）に設置。

